

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370200521		
法人名	有限会社ティム		
事業所名	喫茶去		
所在地	八代市田中西町11-2		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村報告日	令和2年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>定員5名という少人数のご入居者を、みんなで心を寄せ合って介護しています。喫茶去を我が家のように、また、スタッフを家族のように思ってくださいと嬉しいな・・・との思いで日々過ごしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表の思いである「わけへだてなく仲良くお茶を飲みましょう」を理念とした事業所では、入居者5名と職員とで「昔ながらの普通の暮らし」「一緒に暮らす家」の思いがあふれるような生活が営まれています。新たな体制となり3年、以前からの家庭的な雰囲気を継続しつつ、より質の高いケアに向け、研修・実績を積んでいます。地域との繋がりも広がり、災害対策でも地域と共に対応を考え、協力を求め、入居者の安全を第一とした取組みの様子が聞かれました。入居者の毎日の生活では、自宅での家事や洗濯、縁側での日向ぼっこを思い浮かべ「普通の暮らし」が穏やかに続いています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「わけへだてなく仲良くお茶を飲みましょう。」この理念を共有し、実践に努力しています。	開設以来の理念は事業所そのものを表しており、一軒家でゆったりと過ごす入居者の生活が営まれている。理念は事業所内にさり気なく飾られ、来訪者にも親しまれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への外出に取り組み始めた矢先に、新型コロナウイルスの感染拡大となり、外出も外部からの面会も、思うようにできなくなりました。	入居者の入替りも見られ、近隣への外出にも取り組み始めた様子も聞かれたが、今年は感染症予防もあり控えている。地域住民の繋がりから新しい職員も迎えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ積極的に出ることは、上記の理由からできませんが、緊急避難場所の指定を相談するなど、ご近所とのやり取りがありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議の開催を予定し、実施してきました。新型コロナの影響により、中止した回もありましたが、文書により喫茶去の様子をお知らせしました。	隔月開催の運営推進会議には従来家族も参加していたが、今年度は書面での実施を余儀なくされた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議及び身体拘束等適正化委員会の場にて、情報交換を行い、適宜助言いただいています。	運営推進会議・身体拘束等適正化委員会への参加、日頃の連絡等で協力関係の構築に取り組んでいる。今年度は特に感染症や災害対策等で連絡を取り合う機会も多く、協力関係もより深くなった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケアが身体拘束につながる可能性があること、などを話し合い、ケアのあり方(介助方法、コミュニケーション方法等)を改めて考える機会としました。	「身体的拘束等適正化のための指針」を用い、具体的例等、事業所の勉強会で年2回の振り返りを行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での定期的な研修を開催するとともに、日々入居者の声に耳を傾け、ケアのあり方に問題がないか注意を払っています。		

喫茶去

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護制度を活用している方はありませんが、相談があった際は、関係者と連携を図りながら対応していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく、日頃から不安や疑問があれば、気軽に尋ねていただけるような雰囲気づくりを心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議に家族の参加をお願いし、ざっくばらんに意見していただいています。	家族へも運営推進会議への案内を行い、事業所の様子を伝えている。日頃から面会も多く、職員とも関わることで話す機会も多く見られる。	家族の面会も難しいと言われる状況の中、家族を遠ざげたくないの思いから迎え入れている様子が聞かれましたが、この時期ゆえの家族の思い・意向をより確認されることにも期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	お互いに顔を合わせ、言いたいことを言い合える環境を大事にしています。	代表者・管理者も日々の業務に携わり、職員間でも運営・業務・ケア等について話すことができる状況である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ個々の努力や実績について把握し、向上心をもって働けるよう、職場環境を整える努力をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフ個々のケアの力量を把握し、働きながらトレーニングしていくことを進めています。研修の機会ももうけて、各自レベル向上に期待しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は、研修会・勉強会への参加、同業者との交流ができない状況が続いています。メールやFAXといった手段にかえて、交流を継続していきたいと思っています。		

喫茶去

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方は、困りごとや不安なことを言葉に表出できません。心身の状況や行動面を注意深くみることで、ご本人の気持ちに寄り添うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後は、コミュニケーションの困難なご本人にかわって、ご家族との情報交換を密に行います。ご家族が安心してこられると、ご本人も徐々に落ち着いてこられます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の混乱については、ご家族の助言や面会がとても重要です。ご家族と話し合いながら、よりよい生活環境に整えていくようにします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喫茶去は普通の暮らしを楽しむ家です。ご入居者・スタッフ、分け隔てなく支えあって生活しています。お元気なご入居者には家事を手伝っていただき、介護がたくさん必要なご入居者にはおしゃべりや笑顔で元気をいただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会を推奨することはもちろん、日頃から情報交換を密にすることで、ともに本人を支えていく関係にあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、親戚、昔からの友人等、なじみ深い方の申し出があれば、できるだけ会っていただきたいと思っています。	何よりも家族との関係を大切にしており、来訪を歓迎している。入居者の状況もあり、近年では来訪によるものが殆どである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や利用者同士の関係をみながら、お互いが思いやりをもって生活できるよう、関わっています。		

喫茶去

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去で、利用が中止・終了しても、出会ったご縁を大切にします。本人が亡くなったあとも、喫茶去のことを気にかけてくださり、逆に支えられていると感じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症のために、意向の把握が難しい方もおられます。家族に意見を聞いたり、できる限りの意思疎通を図りながら、想いをくみ取るようにしています。	入居間もない際には特に意向の把握に苦慮する場面も見られることもあるが、職員の対応を日々検討し、家族の意向も確認しながら把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に聞き取りをすると、思わぬ記憶が引き出せる場合もあります。生活歴を聞くことで、対応の仕方のヒントをもらうこともあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	加齢による体力の低下や認知症の進行で、これまでできていたことができなくなったり、心身の不調を訴えられないこともあります。観察を怠りなく、些細な変化に早めに気づき、対応したいと思います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子やケアの実践を記録に残すだけでなく、家族や医療機関とのやりとりなども、適宜記録するようにしています。スタッフ同士のコミュニケーションも大切にして、不安なくケアできるようにしています。	日々の様子から課題・ケアのあり方を職員間で共有し、入居者本位の介護計画を作成している。日頃から入居者の状況は家族へも細かに報告されており、家族の意向も介護計画へ取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ同士コミュニケーションを密にすることで、気づきや工夫が深まります。実践と評価でよりよいケアを目指します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応えられるよう、その時々柔軟な対応を心掛けています。		

喫茶去

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療、訪問看護、訪問理美容、必要に応じて導入することで、本人・家族・スタッフが安心していられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時にはできるだけ家族も同行していただき、本人の健康状態を把握しておいてほしいと思います。喫茶去での様子は、スタッフが同行することで、簡潔にまとめて主治医へ報告・相談しています。	入所前からのかかりつけ医の受診を支援している。入居者の体調の変化は小さなことでも家族へ連絡しており、職員付き添いでの通院はできるだけ家族の同行も依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調によっては、訪問看護を利用することがあります。主治医への報告・相談同様、看護職への病状の相談や日常生活に係るケアの相談など、細かく連携を図ります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の方は、入院での環境変化に敏感で、眠れなくなったり食事がはいらなくなることもあります。入院中も病院と情報交換しながら、必要があれば面会に行ったり食事介助するなど、本人が安心して入院生活が送れるよう、支援します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しての家族の意向を聞き取り、できるだけその意向に沿って、最期を見守ります。訪問診療・訪問看護との連携もとても重要です。家族含めたチームで取り組み、後悔のない看取りができれば、と考えます。	人生の最期を事業所で迎えることは自然のこととし、訪問医療・看護等を利用しながら職員・家族含めた関係機関・関係者連携のもと取り組んでいる。重度化した際の入居者の日々の様子は職員で共有しあい、日常のケアとの違いも学びあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、スタッフ間で連絡を取り合い、対応できています。家族への連絡、救急車の要請、緊急性がなければ外来受診するなど、その時々で対応します。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画の立案、避難場所の確定など、運営推進会議に諮り、意見をいただきました。地域住民を入れての避難訓練をしてはどうか・・との貴重な提案もいただきました。	消防避難訓練、水害の訓練を定期的に行っている。緊急連絡網や家族・外部機関連絡先を備蓄品にも加え、避難方法等、運営推進会議を通じ、地域からの意見も交えて決めた。避難場所の一つとして近隣施設へも協力を依頼している。	今秋の台風の際は、マニュアルに沿った訓練を見直す良い機会となった様子が窺えました。入居者の安全確保のため、近隣との協力体制の継続に期待します。

喫茶去

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正化のための研修でも、人格を尊重すること、言動特に言葉遣いに注意することなど、学びあっています。	開設以来、代表を始めとする職員全体で取組んできた。職員も増え、研修時や折に触れ話している。特に着替え・排泄・入浴時等の「職員の油断」について研修時に話す機会を持った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切に、本人が思いや希望を表したり、自己決定できるような、雰囲気作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症のために時間や季節がわからなくなっている方もいらっしゃいます。それぞれのペースに合った暮らしができるよう支援します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床・就寝時の着替え、起床後の整容等、清潔を心掛けてケアしています。できるだけ着たい服を選んでいただくようにして、おしゃれ心を失わないようにします。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しい時間になるように、好みやできることを把握して、それぞれに支援しています。また、落ち着いて食事できるよう、座る位置にも配慮します。	職員手作りによる食事は、入居者それぞれの好みや体調・状況に合わせており、家庭的な食事である。少人数でもあり、支援の状況により、ゆったりとしたスペースで落ち着いた食事が出る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おひとりおひとりの咀嚼力・嚥下力に応じた食事を提供します。水分摂取が不足しがちなので、定時に水分をとっていただくよう、準備・声かけをします。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをするとともに、口腔体操や歌を歌うなどして、口腔の機能低下を防ぎます。		

喫茶去

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じたおむつやリハビリパンツの使用、ポータブルトイレの使用を検討します。日中はできるだけトイレに行っていたくよう、声掛けや介助をしています。	入居者それぞれの状況に合わせて対応している。昼間はできるだけトイレでの排泄を支援し、夜間はポータブルトイレやおむつも状況により利用する。スムーズな排泄を目指し、摂取した水分量の確認も始めた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事や、水分摂取等で便秘を予防します。どうしても便秘が解消されない場合は、主治医に相談し、お薬を使用することもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし、体調不良時は入浴日を変更したり清拭にかえるなどしています。本人がゆったりした気分で入浴できるよう、それぞれのペースで介助します。	週2回を基本とし、毎回お湯を入替え、心地よい入浴の時間を作っている。入浴日には体調等にも配慮し、入浴日の変更等清潔に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンもひとりひとり違います。気持ちよく休養がとれるよう、空調や寝具など環境を整えるなどの工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の服薬管理を喫茶去で行います。内服が変更になった場合は、全スタッフに周知するとともに、服薬後の変化の観察を怠りません。不明な点があれば、主治医に相談し勝手な判断をしないようにします。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅での役割が継続できるよう、できることは手伝ってもらいます。毎回嬉しそうに手伝ってくださいます。気分転換にもつながっているようです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年に入ってから、新型コロナウイルス感染の心配があり外出できていません。家族との外出、食事等早く再開できることを願っています。	今年は感染症予防の観点から殆どの外出を控えざるを得ない状況であった。現状では、庭の野菜畑を眺めたり、洗濯を干したりと事業所での日常生活で外気を感じている。通院は外出の機会とし、車椅子で遠回りする等、日頃と違う時間を過ごす工夫をしている。	感染症予防のため、外出がままならない様子が窺えました。社会情勢が落ちついた際には、是非日常的な外出の機会を設けられることに期待します。

喫茶去

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、家族の判断に任せており、安心のために少額所持している利用者もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことは難しいですが、本人から希望があれば、家族に電話をするなど、必要に応じて支援します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境を心掛けるとともに、季節の花や飾りつけをするなど、目で見て楽しめる空間づくりを工夫します。	木造一軒家である事業所には穏やかな光が差し込み、掃除も行き届いて心地よく過ごすことが出来るよう、換気等にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでもくつろいで過ごせるように、空調や照明など配慮します。また、ゆっくりと過ごせるよう、お茶やコーヒーをお出しすることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるように、本人・家族と話し合っって居室を整えます。写真や人形など、好きなものを飾って、自分の部屋とわかる工夫もしています。	使い慣れた品が持ち込まれた居室には、家族の関わりも見え、入居者による毎日の生活の様子が窺える。入居者によってはタンス内の片付けも職員と共にやる姿も見られ、入居者それぞれの生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ安全に安心して生活できるよう、バリアフリー、手すり等環境を整えています。		

2 目 標 達 成 計 画

喫茶去

作成日 令和2年 11月 16日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		今後運営を継続していくことが困難となり、12月をもって、いったん事業所を閉めることとなりました。	5名の入居者の受け入れ先を見つけ、スムーズに生活が移行していくことを考えています。	ご家族の意向を確認しながら、施設を検討しています。	12月中旬
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。